

1日 土曜

ルカ

- 1:1 私たちの間ですでに確信されている出来事については、(V.2 挿入)多くの人が記事にまとめて書き上げようと、すでに試みておりますので、
- 1:2 初めからの目撃者で、みことばに仕える者となった人々が、私たちに伝えたそのおりを、
- 1:3 私も、すべてのことを初めから綿密に調べておりますから、あなたのために、順序を立てて書いて差し上げるのがよいと思います。尊敬するテオピロ殿。
- 1:4 それによって、すでに教えを受けられた事がらが正確な事実であることを、よくわかっていたきたいと存じます。
- 1:5 ユダヤの王ヘロデの時に、アビヤの組の者がザカリヤという祭司がいた。彼の妻はアロンの子孫で、名をエリサベツといった。
- 1:6 ふたりとも、神の御前に正しく、主のすべての戒めと定めを落度なく踏み行っていた。
- 1:7 エリサベツは不妊の女だったので、彼らには子がなく、ふたりとももう年をとっていた。
- 1:8 さて、ザカリヤは、自分の組が当番で、神の御前に祭司の務めをしていたが、
- 1:9 祭司職の習慣によって、くじを引いたところ、主の神殿にはいつて香をたくことになった。
- 1:10 彼が香をたく間、大ぜいの民はみな、外で祈っていた。
- 1:11 ところが、主の使いが彼に現われて、香壇の右に立った。
- 1:12 これを見たザカリヤは不安を覚え、恐怖



- に襲われたが、
- 1:13 御使いは彼に言った。「こわがることはない。ザカリヤ。あなたの願いが聞かれたのです。あなたの妻エリサベツは男の子を産みます。名をヨハネとつけなさい。
- 1:14 その子はあなたにとって喜びとなり楽しみとなり、多くの人もその誕生を喜びます。
- 1:15 彼は主の御前にすぐれた者となるからです。彼は、ぶどう酒も強い酒も飲まず、まだ母の胎内にあるときから聖霊に満たされ、
- 1:16 そしてイスラエルの多くの子らを、彼らの神である主に立ち返らせます。
- 1:17 彼こそ、エリヤの霊と力で主の前ぶれをし、父たちの心を子供たちに向けさせ、逆らう者を義人の心に立ち戻らせ、こうして、整えられた民を主のために用意するのです。」

ルカの言うように、福音書はどれも「綿密に調べ」られて書かれたものです。主のことばの確かさを信頼しましょう。またそのようにルカは、自分の説や考えを披露するのではなく、主のみわざとみこころを伝えることに終始しました。

自分の考えと主のみこころを峻別するのは難しいことではありますが、自分の評価を求めないで主の栄光だけを求めるなら、それができるようになると思われます。自分が尊重されるよりも、主の栄光を求めましよう。

ザカリヤの妻エリサベツは「不妊」の女でありましたが、主の御計画のために用いられました。主のみわざは人の及ばないところにありますので、困難や不可能を抱えている人には希望があります。それも主のために用いられるという希望によって可能なのです。主のみわざを求める人には大き

な可能性があると思ひましよう。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？

